

第7回 キャンパスベンチャーグランプリ 全国大会



平成 23 年 3 月 3 日(木), 東海大学校友会館(東京, 霞が関ビル 35 階)において、「第7回 キャンパスベンチャーグランプリ 全国大会」が開催され、日刊工業新聞でも既報のとおり中国地方代表で岡山大学大学院の兵田朋子さんが特別賞「TDK賞」ならびに特別賞「MIT賞」を受賞されました。おめでとうございます。

本大会は、「日本の次代を担う若者の人材育成」を目的に、大学生・高等専門学校生などを対象に「学生によるビジネスプランコンテスト」として全国8つのエリアで開催されたキャンパスベンチャーグランプリの大賞受賞者を中心に、優れたプランの代表者を一堂に集めて開催されたものです。

コラボレーションセンターを代表して本イベントに参加してきましたので、その内容を簡単にご紹介します。



表彰式での兵田さん

主催者挨拶・審査委員長による実施方法の説明 (11:00~11:15)



主催者挨拶(日刊工業新聞社 越智取締役)

当日は、まず主催者である日刊工業新聞社の越智取締役からご挨拶があり、続いて審査委員を代表して一柳委員長(株)一柳アソシエイツ代表取締役)から実施方法・審査基準についてご説明がありました。

一柳委員長からは、新規性・事業性・表現力の3点から総合的に評価することが説明されましたが、特に、提案者のやる気や伸びしろを重視すること、単に利益の大きさだけを評価するのではなく事業の社会性や持続性も評価すること、どのようにビジネスとして成立させるかまで詰めているものを評価することなどを強調されていた点が印象に残りました。

各プランのプレゼンテーションと質疑応答 (11:15~17:00)

プレゼンテーションは全部で13テーマについて行われ、まずテクノロジー部門の案件8テーマ、続いてビジネス部門の案件5テーマという順番で進行了ました。質疑応答は、テクノロジー部門では4案件の発表が行われるごとに、それらに関する質疑応答をまとめて行うという形式で、ビジネス部門では3案件の発表の後でそれらに関する質疑応答、最後の2案件の発表の後でそれらに関する質疑応答という形式で進められました。

どのプレゼンテーションに対しても、審査委員からは、事業としての優位性のポイントをどう考えているのか、5年後の売上と従業員数の見通しはどうか等厳しい質問が寄せられていましたが、それと同時にどうすれば事業化に向けてうまく展開していけるかについて具体的なアドバイスがあったり、提案者への暖かい激励の言葉があったりするなど、張り詰めた中にも時折和やかな空気が流れる中でプログラムが進められて行きました。

岡山大学大学院の兵田さんの「イムノクロマト法による呼気凝縮液中の好中球マーカーの検出」についてのプレゼンテーションは第2グループの最初、全体では5番目に行われました。昼食後の最初ということでコンディショナルにも難しい順番でしたが、兵田さんは大変落ち着いておられ、堂々とした素晴らしいプレゼンテーションでした。

兵田さんのビジネスプランは、気管支喘息(ぜんそく)の重症度を、イムノクロマト法により簡便に判定できる検査法に関するものですが、従来から尿、妊娠、インフルエンザの検査などに広く利用されていたイムノクロマト法を喘息の検査に適用し、呼気を吹きかけて色調の変化を判別するだけで検査を行うことが可能で使い捨ての簡易な検査キットを開発した点に高い独創性があると高く評価されました。また、この検査キットが実用化されれば、患者さん自らが重症度をどこでも簡単に判定でき、治療方針や薬剤の選択などに利用できるということで非常に社会的に有用性が高いという点も大いに賞賛されました。



兵田さんのプレゼンテーション



質疑応答中の檜崎さん、土井さん、大森さん

ビジネス部門の中国地方の代表である広島商船高等専門学校 檜崎綾夏さん、土井敏志さん、大森寛士さんは「音楽作成リハビリテーション支援システム」についてプレゼンテーションを行われました。全体の最後の順番であったために、緊張の時間が長く大変だったことと思いますが、会場全体を引き付ける大変素晴らしいプレゼンテーションでした。

檜崎さんらのビジネスプランは、従来は肉体的にはもちろん、精神的にもつらいリハビリについて、音楽とお絵描きという娯楽の要素を取り入れることで、高齢者の方が楽しく簡単に取り組むことができ、他人とのコミュニケーションのきっかけにもなるシステムで、高齢者の方に優しいリハビリテーション支援システムということで、審査委員から高く評価されました。外部の資源をうまく組み合わせて有効活用すれば大崎上島という狭い範囲に留まらず、世界を目指した事業展開も構想できるのではないかと評価もいただいていた。

表彰式・交流会 (17:00~18:30)



表彰式での兵田さん

表彰式は日刊工業新聞社の井水社長のご挨拶で幕を開け、結果発表に進みました。

注目の大賞は、日本工業大学大学院・原顯寛さんの「STEMセルバンキング<<幹細胞活用が誰でも活用できる社会を目指す>>」に文部科学大臣賞(テクノロジー部門大賞)が、早稲田大学大学院・胡浩さんらの「WEB サイトを活用した情報集約型プラットフォームの提供による日中環境ビジネスの推進事業」に経済産業大臣賞(ビジネス部門大賞)が贈られました。

兵田さん以外の特別賞は、九州大学大学院・木村一郎さんらの「Bluetooth オシロスコープの商品化と普及による、も

のづくり文化と理系教育の活性化」に特別賞「マイクロソフト賞」が、新居浜工業高等専門学校・藤岡千広さんらの「美味しいスイーツをどうぞ！ー愛媛産の果実から作るデザートー」に特別賞「MIT賞」が贈られました。さらに今回は審査委員会特別賞が名古屋工業大学大学院・林幸弘さんらの「地域の学び合い促進事業」に贈られました。

ー柳委員長の総評では、どのプランもプレゼンテーション技術は大変に素晴らしかったこと、大賞を受賞した2件は事業展開計画の細部まできちんと詰められている点が他のプランと比較して格段に優れていたこと、その他のプランは僅差の高いレベルの争いであったことなどが紹介されました。さらに、今回プレゼンテーションを行った全員に対して、ベンチャーには「スピード」、「やる気」、「リスクを恐れない」という点では絶対に大企業に負けないという特性があるのだから勇気を持って起業していただきたいとの激励の言葉を贈られています。

兵田さんのプランは研究開発、技術面では文部科学大臣賞(テクノロジー部門大賞)を受賞した日本工業大学大学院のプランに勝るとも劣らない内容で、仮に自ら起業されるという方向性であったら大賞受賞もあり得たのではないかと思われ、その意味では少し残念な気もしましたが、特別賞のダブル受賞も大変な栄誉であり、重ねてお祝いを申しあげたいと思います。

【レポート作成者】中国地域産学官コラボレーションセンター(中国経済連合会)

(連絡先) TEL 082-242-4511 / FAX 082-245-8305 / Email collabo0@ms9.megaegg.ne.jp